

相手を思う気持ち声を込めて

朗読ボランティアこだま会 広報チーム

市では、目の不自由な市民に対して、「広報まいづる」の内容をカセットテープに吹き込む「声の広報」という取り組みを行っています。昨年10月からボランティアで「声の広報」を行っていただいている「朗読ボランティアこだま会 広報チーム」の皆さんにお話を伺いました。

活動内容は

こだま会は、平成14年に結成し、小学校や介護保険施設での朗読、公民館や保育園



(所) などの絵本の読み聞かせや紙芝居の上演などをボランティアで行っています。

「声の広報」について

「朗読」は作品に込められた感情や思いを表現するものですが、「声の広報」のような「アナウンス」は、内容を一度ではつきり理解できることが求められます。聞き手にとって分かりやすい読み方をしなくてはならないというプレッシャーがありました。しかし、新しい分野に挑戦しようという会員の声もあり、「声の広報」を引き受けることにしました。現在は「広報チーム」13人のメンバーで分担して吹き込んでいます。

メンバーは、「声の広報を担当するようになつてから市のことがとても身近になりました」「視覚障害者の知人がいるので、常に目の前にその人がい

ると思つて読んでいます」などと話しています。

朗読の素晴らしさは

技術が進歩し、コンピュータに言葉を発声させることは容易にできる時代になりました。しかし、コンピュータは言葉を読むことはできても、相手を思う気持ちや心を込めることはできません。人の声だから伝えられることがある。人間が読む意味はそこにあると思います。

「アナウンス」は「朗読」とは少し違いますが、基礎となる心の部分は共通です。テープを聞く相手のために、正確で分かりやすい吹き込みができるように、みんなで努力していきたいです。

市民の皆さんに一言

こだま会では、多くの人に「朗読」の良さを知ってもらおうと年1回、朗読コンサートを開催しています。今年も5月18日(土)13時から市政記念館で開催する予定です。朗読をやってみたいと思う人向けにも6月に入門講座を開催します。「朗読」を通して人と人とのつながりを広げませんか。

「声の広報」をお届け

「声の広報」のお届けを希望する人は、身障センター(☎63・3008、FAX 62・9546)へ。

「広報まいづる」の設置場所を増やします

5月1日から、より多くの皆さんに「広報まいづる」を読んでもただけるよう、「広報まいづる」を設置する公共施設を増やすほか、市内の病院やスーパーなどにも試験的に設置。受け取りやすくなります。

設置する公共施設

- ◆市役所受付◆情報公開コーナー◆西支所◆加佐分室◆各公民館◆大浦・城南会館◆東・西図書館◆引揚記念館◆市政記念館◆まいづる智恵蔵◆西市民プラザ◆まいづる観光ステーション◆東舞鶴駅観光案内所◆西駅交流センター◆商工観光センター◆市民病院◆東・文化公園体育館◆文庫山学園◆赤れんが博物館◆子育て支援センター◆各親と子のひろば

試験的に設置する施設

- ◆舞鶴赤十字病院◆舞鶴共済病院◆舞鶴医療センター◆らぼーる◆にしがき福来店◆フクヤ白鳥店◆三ツ丸ストア余内店◆東・西舞鶴郵便局

「市ホームページ」にも掲載

「広報まいづる」の内容は、市ホームページにも掲載しています。

▼詳しくは、広報広聴課(☎66・1041)へ。

